

自己の生き方を考えることができる生徒の育成
～地域を知ろう・地域に学ぼう・地域の未来を考えよう～

日立市立多賀中学校

1 はじめに

本校では、教育目標を『「生きる力」を身に付けた生徒の育成』とし、めざす生徒像を「自ら感じ、自ら考え、実践する生徒」、「心豊かで、思いやりのある生徒」、「心身ともにたくましい生徒」として、日々の教育活動に取り組んでいる。

「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」において、総合的な学習の時間の目標を「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」と明記してある。将来の予測が困難な現代社会を生きていく上で、自己の生き方を見つめて自己決定していくためには、自分の生活と関連付けて物事を捉える見方や考え方が重要になってくる。

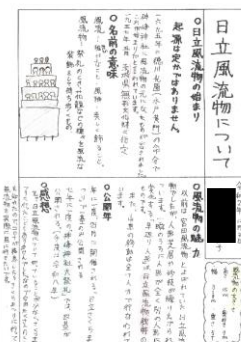
2 資料

(1) 各学年の取り組み

① 1学年(地域を知ろう)

1学年では、地域の人々の暮らしを支援する人々とその仕組み、その現状と自分との関わりを理解するための活動を行った。1・2学期は、「日立のいいところを再発見しよう」というテーマで、日立市内の施設や自然、産業など、各自が調べるテーマを決めて、それについてインターネットや本で調べた。それを新聞にまとめ、各グループで発表会を行った。3学期は、2学年で行う職業体験に向けて、職業・職種について調べ、地域の人々の暮らしが自分とどう関わっているのかを考える活動を行った。

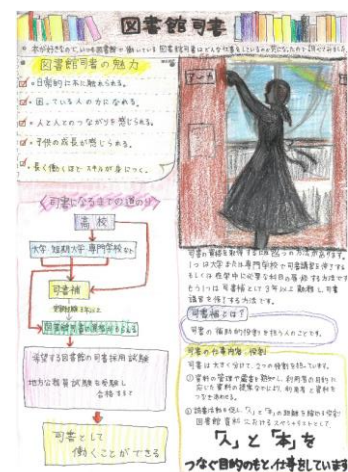
<私たちの風流物新聞>



② 2学年(地域に学ぼう)

2学年では、地域で働く人の夢や願い、働くことの意義を理解することをねらいとして、探求活動を行った。例年は、1学期に職場体験活動を行い、2学期にそれを模造紙にまとめ、発表会、3学期に高校調べを行う流れだったが、今年はコロナの影響で職場体験が実施できなかった。そのため、インターネットや本から得た情報を整理し、レポートにまとめ、発表する活動のみを行った。レポートは廊下に掲示し、他クラスの生徒の調べた職業も共有できるように工夫した。

<職業調べレポート>

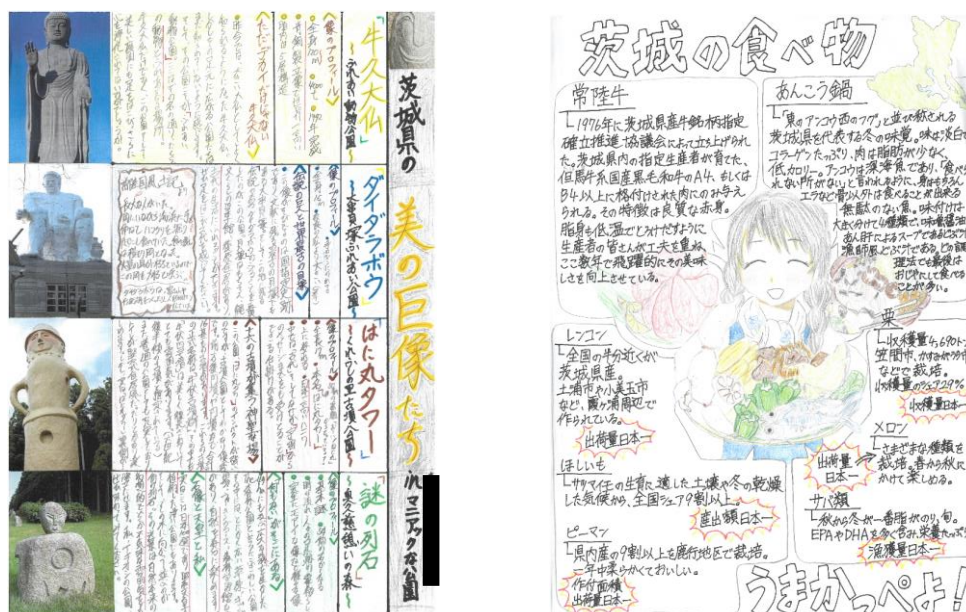


3学期は、次年度の進路選択に向けて、高校調べを行った。県内の高校名を調べ、その中から自分の興味のある高校を選び新聞にまとめた。

③ 3学年(地域の未来を考えよう)

3学年では、まず県立高校と私立高校の違いや、学科の種類など、高等学校についての基本的な知識を学習した。その後、町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織について探求する活動を行った。都道府県魅力度ランキングが低い茨城県が上位にランクインできるようにするために、茨城県の特色や魅力を生かしたPR活動やイベントを考え、PRするポスター・新聞等を作成した。その後、グループに分かれて、自分の考えたPR活動やイベントを友達に発表することで、設定した課題について、収集した情報を参考にしながら解決していこうとする態度を身に付けた。

<生徒が考えた茨城県PRポスター>



3 成果と課題

それぞれの学年で、多くの生徒が自分で決めたテーマについて調べたり考えたりしたことをまとめる活動を通して、情報収集の手段を選択し、そこから必要な情報を取捨選択し、分析してまとめ、表現する力を身に付けることができた。また発表会等の発信する活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しようとする姿勢や、考えを比較したり共有したりして、多様な情報を分析する力を身に付けることができた。

今後の課題としては、情報収集の際に、本やインターネットの文章をただ写すだけの生徒もいたので、調べ学習の方法を教えていく必要がある。また、職業体験ができなかった生徒たちに、どのようにして望ましい勤労観や職業観を身に付けさせるか、またそれをどうやって将来の夢の実現や進路選択に生かすかを考える必要がある。自分のやりたいことが見つけられず、進路選択をする際に困ってしまう生徒は少なくない。総合的な学習の時間のみならず、普段の生活の中で生徒の良いところを見つけ、自己肯定感を高め、やりたいことや自信をもてることが少しでも見つけられるよう支援していきたい。